

## 昔の情報伝達、旗振り通信

明治時代、高月町に「米相場人たまり場」があったと記録に残っています。少しでも早く相場を知る必要のあるこの職業、米相場がたつ大阪とあまりにも遠い湖北になぜ成立したのでしょうか。

長浜に電話が開通したのは明治末の四二年ですから、このころは連絡手段は無いに等しい状況。にもかかわらず、日々変動する大阪の米相場が簡単に分かりました。どのようにして知ったのでしょうか。

答えは旗。お互いが見通せる高い場所に旗を持った係員が待機、情報を旗の動きで順に送って行く「旗振り通信」です。これが京阪神から遠く離れた湖北の地でも情報を簡単に入手できるようにしてくれました。

旗振り通信は江戸時代に大阪で始まりました。蔵米の集散地の大阪には日本一の米相場がたつ、その情報を各地に伝えるため関西一円に発達していきました。明治六年には大津、五年ころには彦根まで拡大したと伝えられています。当時は同じ目的で飛脚や伝書鳩、ノロシ(煙で合図を送る方法)なども用いられていました。

「こうした江戸・明治時代の情報伝達方法は現代の私たちが想像する以上に実用的なものだったようです。ペリーが日本に来たとき、わずか一日後には八日市の米価が跳ね上がったと言いますから」(中島伸男さん)

事実、旗振り通信は大阪に電話が開通した(明治三年)後も健在でした。当時の電話は接続されるまでかなりの時間がかかったからです。記録によると、大阪・和歌山間の電話の接続には一時間以上もかかりました。一方、旗振り通信ではわずか10分ほど。大正三年の予約取引所電話規則制定で電話の接続時間が短くなるまで、旗振り通信は「最速」の通信手段として活用されていたのです。

# 情報伝達の今昔。

～旗振り通信からケーブルテレビへ～

山、川、湖……豊かな自然に恵まれた湖北の地。かつては京阪神の都心部との人やモノの移動、情報の入手に苦勞することもありました。しかし、先人たちのさまざまな工夫がそれを克服しました。明治の旗振り通信に詳しい野々宮神社宮司の中島伸男さんと、情報先進地・余呉町役場地域振興課笠原隆さんとケーブルテレビを担当している田中正樹さんにお話をうかがいました。



▲米相場は「上げ相場」・「下げ相場」を表す振り方と、イラストの米の値段を表す振り方で伝えられた。

旗を振る方向を指し示した矢印が振られた石

「当時は天気によって旗の色を変えたようです。見えやすい色が違いますから。滋賀県内では彦根・佐和山までは旗振りに使われた山が分かっています。以北はどの山を使ったのかまだ分かりません。ご存じの方はぜひとも教えてください。」(同)

## 現代の情報通信 「ケーブルテレビ」

現代では山間の地・湖北の地理的特性が情報先進地への契機となりました。代表例が余呉町営のケーブルテレビ「CNYコムニケーション・ネットワーク・余呉」です。テレビの電波が届きにくい余呉町では、昭和三〇年代後半から集落ごとに共同アンテナを立ててテレビを見られるようにする「テレビ組合」が普及しました。

平成五年、組合は「都市と地方の情報格差の是正、過疎地域の活性化」を目的に整備され、結果としてケーブルテレビ「CNY」が誕生したのです。自治体直営のケーブルテレビとしては先駆ける存在でした。ケーブルの総延長は一五五キロ。余呉・京都に相当する長さで、これで全戸(二二八〇戸)が結ばれました。

CNYには自前のスタジオ設備もあり自主番組が制作されています。一週間の町の出来事を報じる「CNYニュース(三〇分)」が流され、年末年始と八月には「総集編」も放送しています。町議会定例会の本会議が完全ナマ中継されるのもCNYならではです。

平成七年にはケーブルテレビを利用した県内初の町内電話が開通しました。町内全戸と公的機関など約一四〇〇カ所間で電話が無料でかけ放題。町内ならNTTの電話は不要です。

さらに、昨年十月からはインターネット接続も実現しました。月額二〇〇〇円で使用放題。電話回線と比較できないほど大

容量高速の通信が可能です。かつては難視聴対策だったケーブルテレビが、現在ではIT時代の先端インフラに变身したわけですよ」(笠原さん・田中さん)

## 情報も運んだ 「川の多様な働き」

湖北の情報通信を振り返るとき、面白い例に出会います。明治二八年の大洪水で上丹生よりも北が陸の孤島となったとき、板に通信文を書き川に流して連絡したとの記録がそれです。川は、飲み水や農業などの「いのちと暮らしの源」や「輸送手段」であると同時に、「情報の通り道」という意外な使われ方もしたことが分かります。

現代でも、地域の災害予測と避難情報が見え分かる「洪水ハザードマップ」の作成が進行中です。また、河川沿いに張り巡らした光ファイバー網によって、ダムや河川、洪水など災害の情報をリアルタイムでやりとりして、地域の人々の安全な暮らしを守る試みが進められ、川に関する情報(※)の整備と川を利用した情報の伝達が行われようとしています。

## 滋賀県下の旗振り通信ルート



※…川に関する情報  
詳しくは、<http://www.yodogawa.kk.moc.go.jp/>  
<http://www.biwako.kk.moc.go.jp/> をご覧下さい。

▲大阪・堂島の旗振り通信風景

笠原隆さん(左)  
1951年(昭和26年)生  
余呉町役場地域振興課課長、ダム対策室長

田中正樹さん(右)  
1962年(昭和37年)生  
余呉町役場地域振興課主任、CNY開局の年から情報の仕事に携わる。

中島伸男さん  
1934年(昭和9年)生  
野々宮神社宮司、八日市郷土文化研究会事務局長  
著書「近江鈴鹿山脈の歴史」「鈴鹿堂仙山の伝説と歴史」「鯨魚号が空を飛んだ日」等